

行き届かない国の支援

-インドの女性家事労働者に対する新型コロナウイルス感染症の影響-

デイシャ・アロラ (インド)

新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)は、「不平等のパンデミック」として広く認識されました。コロナの影響は不平等の度合いによって異なるため、この呼び名はまさに言い得て妙です。先進国(少数を除く)では豊かな物資や資金のおかげでより適切な対処が可能です。そうでない地域は大きな危険にさらされ、貧しい人々は以前に増して苦しんでいます。これは、異なる集団でのコロナの影響が均一ではないことを明らかにしています。家事労働者は、コロナのために深刻な困難に直面している集団の一つです。この記事では、コロナがインドの女性家事労働者に与える影響について検証します。

インドの家事労働

国際労働機関(ILO)によると、インドでは約300万人の女性が家庭内労働に従事しています。しかし、これは実際の家庭内労働者数を過小に見ています。実際には2,000万から8,000万人と推定されており、女性家事労働者の正確な数はもっと多いことを示唆しています(出典:ILO、2020)。インドにおける社会的差別は経済的地位、カースト、都市への人口移動などによって特徴づけられますが、中でも家事労働者たちは、特に疎外されている集団です。こうした家事労働に携わる女性たちは、社会的、文化的にもさまざまな不利益に直面しています。インドの労働法のほとんどは、家事労働者には適用されません。したがって、女性家事労働者がコロナによってより深刻な影響を受けているのは、適切な保護法の欠如や社会経済状況からくる複合的な問題によるものなのです。

新型コロナウイルスの影響

コロナがもたらすこうした影響については、予測可能な問題であったにもかかわらず、行政による適切な対処がなされなかったため、家事労働者にはいくつもの損害が生じました。

インドの家事労働者のほとんどは出稼ぎであり、彼ら(特に低所得の労働者)は、移住先に住宅を所有していないことが多いため、住居の家賃負担は深刻な問題となりました。

もう一つの大きな問題は、経済的損失によって引き起こされた食糧不安です。政府は、他の多くの非公式労働者と同様に低所得世帯に対しても基本的な配給を発表したが、女性家事労働者は、配給カード・居住証明といった受給に必要な書類を持っていません。そのため、多くの家事労働者は、コロナへの対応策として始まった政府による支援制度の恩恵を受ける事ができずにいるのです。



何百万人もの女性家事労働者が、
コロナ禍で極貧に追いやられた
写真：DIPLEENA SAIKIA

危機の理由

インドの女性家事労働者がこれほどの影響を受けた最大の理由は、政府による具体的な制裁措置がなかったことにあります。2020年3月23日、無期限の全国的な都市封鎖が発表されました。この封鎖により、移動と経済の制限が課せられ、家事労働者は雇用を継続することができなくなりました。居住福祉協会は、都市封鎖中およびその後も、家事労働者による住宅への立ち入りを制限しました。女性家事労働者たちは、潜在的なウイルス感染者という汚名をも着せられ、状況はさらに困難になりました。

危機緩和のための措置

女性家事労働者が直面している危機の大きな原因は、問題解決に向けた国による介入が全く存在しないことであると言えます。この危機に対処するためには、緊急の救済措置と長期的な解決策の二つが必要です。緊急措置には、低所得者層のためのより包括的な経済対策、家事労働者に着せられた汚名を取り除くための方策、そして代替の雇用機会の創出を含みます。長期的な解決策としては、非公式労働者に関する労働法を強化することが必要です。